

古高取通信

令和4年1月

私たちは、活動の四本柱を基に、まちづくりに貢献することを目指します。

- 1. 活動の拠点を創る
- 2. 古高取の知識を深める
- 3. 古高取の魅力を伝える
- 4. 次世代へつなげる

古高取を伝える会会報



目次	
古高取の魅力	2
活動の記録	4
なんでも掲示板	6
ダイジェスト	8
お知らせ	10

新年あけまして
おめでとうございます

永い間コロナ禍に苦しめられましたが、今年にはコロナに負けない年を送りたいものです。

昨年の暮れに瀬戸内寂聴さんが亡くなりました。生涯「戦争だけは絶対にあってはならない」と繰り返し、平和の尊さを訴え続けて来られました。

私は寂聴ファンというほどではありませんが、福島の被災住民と対話する姿に感動したことが記憶に残っています。

寂聴語録に「女が今ほど自分のしたいことが出来る時代はない。世の中が進歩したというより、努力して女が勝ち取ったんです」とありました。

近年国政の場でも女性議員の活躍がみられるようになりました。ただ一部の女性議員の、あからさまなボス議員への村度発言を聞いたとき啞然としました。先輩の女たちが勝ち取ったという自覚を持つてほしいものです。

女性活躍の場を切り拓いていく女性が増えることで、社会も変わっていくだろうし、私たちもその支えになっていきたものです。



隅田知明

古高取の魅力

地域文化功労者表彰を受けました

古高取を伝える会 会計監査

東陽



令和3年11月1日、京都府府民ホールアルティにて文化庁の地域文化功労者表彰を受けました。

同表彰は地域の文化振興に功績のあった個人・団体が対象で令和3年度は全国で90人個人と15団体が選ばれました。

又令和2年11月23日には福岡県教育委員会の文化表彰を、令和3年11月6日には直方市制90周年の際、地域文化の振興に貢献したと90周年記念表彰を受けました。

平成17年に市の文化財専門委員に就き平成29年より令和3年3月まで副会長を務めました。その間直方郷土研究会事務局として退会まで努め、又古高取を伝える会の会員として現在に至っています。

その間、平成20年に開催された高取焼開窯400年祭では実行委員会事務局長を務め千人茶会等、さまざまなイベントを行いました。400年祭より古高取を伝える会が引き続いてきたマイ茶碗作りは令和3年4月現在8517個に至っています。2、3年後には大台1万個に近づきます。

1万個を達成した時には、当会で大きなイベントが出来ればと願っています。

今後とも当会の発展に微力ながら貢献したいと思えます。

陶工五十嵐次左衛門について

副島 邦弘

先号では、「内ヶ磯窯跡出土の鉄絵について」を記述した。今回は高取焼陶工の五十嵐次左衛門につ



内ヶ磯窯出土品陶片

いて調べて見たい。

貝原益軒が編纂した『筑前続風土記』巻29土産考上器用類「鷹取瓷器」には、五十嵐次左衛門の事が、つぎのように

(前略)・・・又、五十嵐次左衛門と云者あり、肥前唐津寺沢家に仕え、彼家を浪人して、筑前に来る。此迫戸瓷器の法を習ひ、其外種々の製を鍛錬せり。忠之公被召出、八蔵と同じく鷹取におゐて、瓷器を作る。共に良工也。・・・(後略)

と、また高取焼の生産を担った高取家の古文書である『高取歴代記録』には、宝永年間(一七〇四～一七一〇)ころより以降の記事には五十嵐次左衛門の孫である次兵衛の名は見出せる。しかし、始祖たる次左衛門の名はまったく見出せない。「安永八己亥年(一七七九)出来」の役所記録「東山高取焼仕

法己」を採録した箇所でも「五十嵐姓之事ハ略之」と述べて五十嵐次左衛門に関する事項を省いている。『高取歴代記録』では、高取焼の歴史の中で確かに存在し活動した五十嵐家の事績について、特に最初の人物五十嵐次左衛門についてすべて無視を決め込んでいる。

五十嵐次左衛門は肥前唐津藩の寺沢志摩守広高の家臣で、瀬戸の製陶法に明るくその他の焼物の製法にも通曉していた。志摩守の父広正は、織田信長に仕え、その後豊臣秀吉に仕え、次第に家を起こし、天正十四年(一五八六)従五位下越中守で、唐津三万七千石を領した。

慶長元年(一五九六)正月十四日に72歳で死去した。この広高は天正十七年(一五八九)に従五位下志摩守に叙任。慶長元年(一五九六)に家を継ぐ、慶長三年二万石加増で領有する。朝鮮再役に出動戦功より怡土郡の内二万石を加増で八万石となる。関ヶ原の戦いでは東軍に属して、岐阜城攻略に参加、主力戦にも参加し、肥後天草四万石を加増された。計十二万石となる。寛永十年(一六三三)四月十一日71歳で逝去。子供の堅高の時、

島原の乱（一六三七）で四万石削られ、その後自刃し、家名断絶となっている。

五十嵐家は広高の時、寛永早い時期に召し放ちを受けて筑前にやって来た。これに関与したのが、博多の神屋宗湛・博多行司の白水家が藩主黒田忠之が茶事を中心に、やきものに力を湧いでいた。長政時代に鷹取山麓に内ヶ磯窯を大規模の藩窯を作っている。忠之はここに新しい技法や技術の導入を求めていた時期でもあったわけで、忠之の御内意を受けていた。このことは西新高取家本の『高取歴代記録』^{注3}の中に五十嵐家が記録されている。それを要約すると、

五十嵐の姓は、もと肥前唐津藩寺沢志摩守の家臣で、先祖次左衛門は茶事を好み、陶器の釉薬を自ら工夫し、腕の立つ陶工たちを集めて楽しみとし、お国（筑前藩）の茶友、博多の白水・神屋などという茶人に工夫して焼いた磁器を送っていた。この頃、忠之公は良い茶器を持っているならば差し出すようにというお触れを出され、数々の茶器が差し出される中に、白水・神屋家から出された次左衛門の茶器があつて、忠之公のはなは

だ珍美するところなり、黒田清太夫に命じ白水・神屋を通じて次左衛門を召し抱えるよう働きかけを行った。次左衛門は志摩守殿の浪人であつたので、焼物師の名目では家柄の面からしても召し抱えの要請に応じることは出来ない、などとかれこれの遣り取りがあり、焼物師の名目ではなく（それなりの待遇で）召し抱えようとの運びとなり、招きに応じて筑前に来り、三十人扶持を与えられ、直礼（お目見への資格）を仰せつかった。次左衛門自身はただ釉薬製法を専らにするだけで、轆轤細工や焼成などの仕事は直接に行わず、それらを行う細工人たちにも次左衛門とは別に扶持が与えられていたとのことである。云々

結果的には、筑前国焼高取は八山一門と五十嵐一門が加わって、高度な茶陶になっていく。寛永元年（一六二四）八山父子が朝鮮への帰国を願い出て忠之の勘気に触れ山田村に蟄居となる。いわゆる山田窯である。この年十月二十四日筑前相島入港。朝鮮出兵以後第三回目となる朝鮮通信使（回答兼刷還使）が將軍徳川家光就任の賀のために来朝したが、大御所であ

る秀忠から諸大名へ朝鮮人俘虜の送還の指令を引き出し、復路には各地より朝鮮人俘虜を收容しながら帰国の途についた。翌年二月八日相島を出港して帰国。対馬で忠之から送還されてきた85名の俘虜を收容した。この三回の俘虜の送還が出される中には上畑・千石窯の陶工たちも含まれていたと推定される。黒田家は八山一族については上手で優秀であつたので、隠匿されて山田に追放して、窯を作つて生活した。藩は目付を送つて管理していた。日本人陶工であつた五十嵐一門の中に渡り陶工として、上方の陶工たちが内ヶ磯窯で作品をつくり続けていったと考えられる。その裏付けとして、寛永五年（一六二八）「遠州茶会記」四月二十三日・二十四日に、「茶入筑前焼」・「筑前焼水指」の名で高取焼が初見する。

ていった。



五十嵐次左衛門の新史料（東山高取焼仕法記）〔筑前高取焼の研究より〕

注1 高取静山編「高取歴代記録」高取家文書 雄山閣1979

注2 高柳光寿・松平年一著「戦国人名辞典増改版」吉川弘文館1981

注3 尾崎直人編「筑前高取焼の研究」福岡市文化芸術振興財団2013 p.52~p.53

注4 西新高取家本『高取歴代記録』より五十嵐家部分

奥村武著「高取焼陶工五十嵐次右工門について」『地方史ふくおか』No.8 1971の中に明治以降現代までの流れが理解できる。

活動の記録(令和三年四月～十二月)

理事会

- 〔第一回〕
〈令和三年四月五日(月)〉
- 〔第二回〕
〈令和三年五月十日(月)〉
- 〔第三回〕
〈令和三年六月七日(月)〉
- 〔第四回〕
〈令和三年七月五日(月)〉
- 〔第五回〕
〈令和三年十月四日(月)〉
- 〔第六回〕
〈令和三年十一月八日(月)〉

焼物部会

- 〔第一回〕
〈令和三年六月十八日(金)〉
場所…直方東小学校
- 〔第二回〕
〈令和三年六月二十五日(金)〉
場所…下境小学校
- 〔第三回〕
〈令和三年六月二十九日(火)〉
場所…福地小学校
- 〔第四回〕
〈令和三年七月八日(木)〉
場所…中泉小学校
- 〔第五回〕
〈令和三年七月九日(金)〉
場所…植木小学校
- 〔第六回〕
〈令和三年七月十二日(月)〉
場所…直方西小学校

- 〔第七回〕
〈令和三年十月八日(金)〉
場所…上頓野小学校

- 〔第八回〕
〈令和三年十月二十八日(木)〉
場所…直方北小学校

- 〔第九回〕
〈令和三年十一月一日(月)〉
場所…新入小学校

- 〔第十回〕
〈令和三年十一月八日(月)〉
場所…感田小学校

- 〔第十一回〕
〈令和三年十一月十六日(火)〉
場所…直方南小学校

学習部会

- 〔第一回〕
〈令和三年十月十六日(土)〉
テーマ…やきもの技術と職人の渡り
- 〔第二回〕
〈令和三年十一月二十日(土)〉
テーマ…高取焼と陶工井土新九郎



広報部会

- 〔第一回〕
〈令和三年十月八日(金)〉
- 〔第二回〕
〈令和三年十二月十五日(水)〉

●陶芸教室に参加して

～高取焼の歴史にふれる～
(地域対象焼物教室)

- 〈令和三年十一月二十一日(日)〉
場所…直方市中央公民館

11月21日(日) 中央公民館において、直方市青少年育成市民会議の主催で陶芸教室が開催されました。参加者は小学生21人中学生2人。古高取を伝える会からは、5人が参加しました。
今回のテーマは「高取焼について学んでみよう!」。まさに私たちの会の趣旨にぴったりの内容でした。

前半は高取焼の歴史に関するお話です。中央公民館2階の郷土資料室に移動し、主催者側の学芸員の方からの説明を聞きました。高取焼が約400年前に直方市永満寺で作られたこと、茶碗や皿など展示物を見ながら当時どんな器を使っていたか、どんな窯で作ら



れていたか等々。

説明の最後に強調されていた言葉です。『高取焼は江戸時代の流行の先端をいつていた焼き物です。高取焼は、直方市がとても自慢できる物なんです。』きっと子供たちの耳に残っているでしょう。

後半は陶芸教室です。私達の出番です。初めに茶わんの作り方を説明しましたが、子供たちは、創作意欲満々で、すぐに自分の作りたいものにチャレンジ。簡素な抹茶茶碗に満足しない子供たちはほとんど形を変えて星形や花形の器

になりました。時間をかけて大きなお皿にした子もいました。貯金箱を作りたいという子は、難しいと分かり別の機会にまた作りたいそうです。指導する方としては、お茶碗づくりという目的をしつかり持たせた方がよいのではと感じました。

小学校低学年は直感的に指を動かすので、器の形の変化が早く、私達5人では目が届かなかったところがありました。反対に自由好きなものが作れたのではないかと思います。子供たちの創造力は計り知れませんから。ただし、焼成する先生はとつても大変だと思いますが、。

子供たちの感想は、楽しかった、また作ってみたいというものがほとんどでした。

今回の陶芸教室では写真・図をはじめ子供たちにもわかりやすい説明がついた資料が配られています。子供たちや保護者に再度読んでいただけます。さらに高取焼の学習と陶芸体験がセットになって楽しい意義のある教室だったと思います。

古高取を伝える会としても、とてもありがたい陶芸教室でした。直方の自慢をより多くの人に知ってもらえるように、ぜひ続けてほ

しいと願っています。

倉田豊子

●ちくぜんのおがた高取焼大茶会 (地域対象焼物教室)

〈令和三年十一月十四日(日)〉
場所・直方駅前周辺地域

秋晴れの十一月十四日に直方市の商店街において、「ちくぜんのおがた高取焼大茶会」が開催されました。コロナの流行もあり、二年ぶりの開催でしたが、普段は閑散とした商店街もこの日ばかりは和服姿の女性や男性も多く見受けられ大勢の人出で賑わいました。各流派のどのお茶席も満席状態で和やかな雰囲気の日でした。

その商店街の一角で「古高取を伝える会」では陶芸体験を行いました。

最初のうちは興味を示しながら実際に体験される人は中々なかったものの、そのうち一人二人と希望者が増えて、一時は用意したテーブルも満席になる程でした。合計七名の参加がありました。

中でも小学生が、苦心して自分のご飯茶碗を造り上げ、満足げな

顔を見てると私達も嬉しくなりました。なかには非常に上手な男性もおられ、初めてではないと言われながらも試行錯誤を重ねて素晴らしい茶碗を造り上げられ、目をみはるようでした。

皆さん出来上がるのを楽しみにされてる様子で、お手伝いをしてる私たちも満足な一日でした。

コロナが早く終息し、来年もまたこの大茶会が開催されるように、願うばかりです。

向野志津絵



●ちくぜんのおがた高取焼大茶会 (地域対象焼物教室)

〈令和三年十一月十四日(日)〉
場所・直方駅前周辺地域

11月14日は天候も良く、又コロナも少しづつですが落ち着き、「ちくぜんのおがた高取焼大茶会」がありました。

当日は着物姿の人も多く見られ和やかな雰囲気でした。

今回は商店街の通りだけの茶席ではなく、直方歳時館・谷尾美術館・向野堅一記念館・円徳寺などにも茶席が設けられ今までと違った魅力を感じることが出来ました。大茶会に来られた方の中にはお抹茶の飲み方を教わり茶席ごとに異なったお菓子を美味しくいただくかれていました。

又、直方日若踊りと植木三申踊りを見て違いが分かり今日ここに来て本当に良かったと喜んでおられる声も聞きました。

伝統文化の継承をしていくことは大変ですが大事な事だと感じました。

実行委員会の方々大変ありがとうございました。

今後大茶会が開催されることを願っております。

吉田佳代子

活動の記録(令和三年四月～十二月)

●ちくぜんのおがた高取焼大茶会

(地域対象焼物教室)

〈令和三年十一月十四日(日)〉
場所：直方駅前周辺地域

「ちくぜんのおがた高取焼大茶会」に直方歳時館子供茶道教室の子供達が歳時館でのお茶席を担当しました。

コロナ禍で余り練習出来ない中充分とはいえませんが、立札のお点前を披露しお菓子を出して抹茶をお出しするというおもてなしを



精いっぱい緊張しながら致しました。

月一回の練習の積み重ねと地域の方々との一期一会の出会いがある呈茶席などに参加させていただく事で成長する子供達の姿を見ることが出来ます。

お茶では「おさきに」「どうぞ」「ありがとうございます」など必ず相手の顔を見てお話しします。

日常生活に於いては何気ない言葉のやり取りですが、礼儀作法の振る舞いが培われ感謝する心根を育むように共に勉強しています。

日本の伝統文化である茶道を通して古高取を伝える会でのマイ茶碗作りを経験し陶芸を通して直方の歴史、日本の歴史などさまざまな事を学び継承していく意義などを伝えていきます。

今回コロナ禍でのお茶会の開催にあたり企画しご尽力くださいました方々に深く感謝申し上げます。

田中紀子

なんでも掲示板

●茅葺き屋根修復プロジェクト

茅葺き屋根の古い茅を焼いて新釉薬の調合に挑戦

〈令和三年五月～令和四年三月〉



9月30日 「古高取を伝える会」訪問。「茅葺き屋根修復プロジェクト」の報告。

10～11月 裏側部分の「茅葺き屋根」の「葺き替え」工事を実施。

11月 撤去した「古い茅」を燃やして灰にする。何度か調整の上、「新釉薬」として調合。

11月26日 「新釉薬」を施釉(釉掛け)して窯入れ「本焼き」を行う。

11月29日 「窯出」。新たな試みの「特別な高取焼」の出来上がり。

2022年3月 表側部分の「茅葺き屋根」の「葺き替え」実施の予定。前回同様。新釉薬作成の上「唯一無二」の「特別な高取焼」を焼き上げます。

「高取焼宗家」として皆様に喜んで頂いている「茅葺き屋根」の保存は必須であると考えており、今回の「葺き替え」を一つの節目と捉え、今後尚一層の努力を重ね精進してまいります。

「古高取を伝える会」の皆様のご支援、サポートをこれからもよりしくお願い致します。

高取焼宗家



●笑顔で草取りしてます
(金剛山もととり保全協議会)
〈令和三年四月〉
場所…金剛山もととり広場

私たちは、上頓野金剛山のふもとの、もととりあじさい園のあじさいを多くの方に見ていただくために、周辺の草刈、除草等のボランティア活動を行っています。

ご存じのように、あじさいの開花は6月から7月初旬のほぼひと月です。

見事に咲き誇るあじさいの鑑賞に来られる皆様に喜んでいただくために、年中手入れをしています。夏の暑さ、冬の寒さは老体には少々堪えますが、それ以上に、たく



さんのボランティアさんと苦楽を分け合う事に、この上ない幸せな時を共有しています。

あじさいの美しさは、その周辺の手入れによって、一層輝きます。

また、3年前にほんの数本植えたフジバカマも元氣いっぱいになり、アサギマダラの可憐な姿を楽しむこともできます。

また、市制90周年を迎えた直方市からは、表彰を受け、嬉しさ倍増したところです。

昨年は、コロナ禍のため、園内のイベントは、中止となりましたが、来園された多くの方々から、ねぎらいや、励ましのお言葉をいただき、さらなるヤル気が出てきます。新型コロナウイルスの影響でつらい生活を強いられている今日、少しでも多くの皆様の心の潤いになればと、笑顔で草取りを楽しみます。

柴田ムツ子

●山寺もみじコンサート
(文化庁企画)
場所…明元寺(直方市永満寺)

11月13日午後2時から、文化庁の企画で県内巡回の演奏会が拙寺(明元寺)が会場となり、尺八(山

崎倅山さん)、フィリッシュハーブ(はるるさん)、パークッション(村岡慈子さん)の出演で晩秋の鷹取山のふもとの山寺で開催致しました。

市内はもとより、遠くは福岡市や北九州市の方々もお見えになり、スタッフを入れて100名程の参加者となりました。

当日は天候にも恵まれ、もみじの紅葉に包まれた中庭園の池の上にステージを設けて、素晴らしい演奏を楽しんでいただくことができました。

「村中の重力 柿なりにけり」

朝日歌壇

「木まもり」という言葉がありま

す。たくさんなった柿をちぎるので、全部取らず五、六個残します。昔の人はそれが自然への礼節であり、又来年もよろしくと願ったようです。

無常観の中での循環と再生を繰り返しながらの自然とのつきあい方です。

今年もどうやら「よくぞようこそ今日が今日まで」の思いです。

「去るのは月日ではなくあなた自身かも知れない」

「今を生き今を生かされ落葉掃く」
「過去問わず落葉静かに地に還る」

鷹取宗恵



ダイジェスト

● 子供焼物教室（焼物部会）

〈令和三年四月〜十二月〉
場所：直方市内の小学校

令和三年、コロナがおさまるところか昨年より厳しく、陶芸教室もどの様な対応がベストか苦慮した一年でした。

一学期6校、二学期5校が無事終了致しました。

先生たちも子供たちもとても頑張られている様子で、この時間を楽しみに待っていてくれました。

私たちが元気をもらう時間でもありました。

三学期はお茶会を楽しみに待っていてくれると思います。

「第一回」

〈令和三年六月十八日（金）〉
場所：直方東小学校

「第二回」

〈令和三年六月二十五日（金）〉
場所：下境小学校

「第三回」

〈令和三年六月二十九日（火）〉
場所：福地小学校

「第四回」

〈令和三年七月八日（木）〉
場所：中泉小学校

「第五回」

〈令和三年七月九日（金）〉
場所：植木小学校



「第六回」

〈令和三年七月十二日（月）〉
場所：直方西小学校

「第七回」

〈令和三年十月八日（金）〉
場所：上頓野小学校

「第八回」

〈令和三年十月二十八日（木）〉
場所：直方北小学校



「第九回」

〈令和三年十一月一日（月）〉
場所：新入小学校

「第十回」

〈令和三年十一月八日（月）〉
場所：感田小学校

「第十一回」

〈令和三年十一月十六日（火）〉
場所：直方南小学校



●陶芸教室

く高取焼の歴史にふれるく

〈令和三年十一月二十一日(日)〉

場所・直方市中央公民館

直方市青少年育成市民会議主催の陶芸教室が開催されました。

参加者アンケートの結果によると、ほとんどの人が「とても楽しかった」と回答されていました。教室に参加して思ったこと、学んだこと（感想）をいただきましたので、以下にご紹介させていただきます。

- ・ 陶芸の作り方
- ・ 高取焼は直方の誇りだということ
- ・ 自分でお椀を作ること
- ・ 知らなかったお皿の形をいっぱい知れました
- ・ 先生たちに助けてもらって人のありがたさを学んだ
- ・ 古くから使われていたこと
- ・ 色んな形があるのを初めて知りました
- ・ 家では作れないものが作れてうれしい
- ・ 焼いた後色が違うと学んだ
- ・ 陶芸を作るのが楽しかった



- ・ 直方で高取焼が始まったことを知った
- ・ 高取焼を知った
- ・ 直方でも400年以上続いているものがあること
- ・ 粘土が柔らかかった
- ・ 高取焼や陶芸の事を学んだ
- ・ 400年の前から高取焼が作られていたこと
- ・ 色んな形の高取焼があることを知った
- ・ 作るのはとても難しかった



ここ数年走り続けた日常にコロナが休息の時をくれました。

その様な中、素敵な詩と出会いました。

「砂時計の詩」

1トンの砂で時を刻む砂時計があるそうです。

その砂が音も無く巨大な容器に積もっていくさまを見ると、時は過ぎ去るものではなく、心のうちに、からだのうちに積りゆくもの、一瞬一瞬を大切に、一日一日を大切に、いい時を自分の中に積らせていくことが大切・・・

末松登志子



お知らせ

●2021年度定期総会 書面表決

2021年度の定期総会は、新型コロナウイルス感染症防止対策のため書面表決としました。

結果は次のとおりです。

- 1 葉書集約数 26枚
- 2 議案

1号議案

2020年度 事業経過報告

賛成26 反対0

2号議案 2020年度

決算報告監査報告

賛成26 反対0

3号議案 2021年度

事業計画(案)について

賛成26 反対0

4号議案 2021年度

予算(案)について

賛成26 反対0

3ご意見・ご要望

・コロナが終息し通常の活動が出来るのをたのしみにしていきます。

・今年もよろしくお願ひします。

・コロナ禍の中、お互いに感染から身を守りましょう。

・高取焼資料館の建設に期待しております。

・いつもお世話になっております。

・お疲れ様です。早くコロナ禍が終息することを願うばかりです。

・文化活動に感謝します。

・コロナ感染終息後は会としての新たな取り組みを期待します。会報への原稿記載ありがとうございます。

・親子会員を募ったり子供会員を募ったり家族会員なども会員証を発行し何らかの特権があったりするようなことを考えたらと思います。直方の美術館50円引きとか新会員を増やす、若い会員を募る。

●高取焼基礎研修講座

「現地視察(窯元訪問)」

〈令和四年三月〉

場所…有田焼窯元

※詳細は、別途ご案内致します。

●子供焼物教室お茶会

子供焼物教室で製作したマイ茶碗を使ってお茶会が開催されます。

・1月20日(木) 上頓野小学校

・2月2日(水) 下境小学校

・2月8日(火) 直方西小学校

・2月18日(金) 直方東小学校

・2月25日(金) 感田小学校

・2月28日(月) 植木小学校

●鞍手幼稚園 陶芸教室と お茶会(地域対象焼物教室)

・1月11日(火) 陶芸教室

・2月初旬 お茶会

「古高取」の魅力を発信するためのイベント情報など募集しています。

事務局までご連絡ください。

〈編集後記〉

当会は、新型コロナウイルス流行の中、感染防止対策を行いながら粛々と事業を実施してきました。なかなか活動ができないう団体も多い中、何事も無く開催できたことは嬉しい事と思います。まだ安心はできませんが、継続は力なりといえますので、安全に気をつけながら着実に一歩ずつでも事業を実施できれば良いなと思っています。皆様、今後ともどうぞご協力を宜しくお願い致します！

「古高取通信」会報・NO34

〈発行〉

古高取を伝える会

〈発行日〉

令和四年一月一日

〈現在の会員数〉

正会員 五十四名(五十四名)

賛助会員 十八名(二十七名)

団体 一団体(二名)

〈マイ茶碗の数〉

九千三十一個

〈事務局〉

〒八二二一〇〇二六

福岡県直方市津田町七十四

TEL 〇九四九(二三)一三二一